航空ファン
KOKU-FAN

☆特集☆

カラー：ルーク基地のF-15/松島のT-2
米空軍のAMST 試作機　②YC-14
"桜弾" を積んだ "飛龍" 改造特攻機

'76 MAY **5**

BUNRIN-DO JAPAN

$3.30

ルーク基地のF-15

F-15 stationed at Luke AFB

胴体下面にスパロー空対空ミサイル（AIM-7）を装備した第57戦闘機武器連隊（57th FWW）所属のF-15Aイーグル。57th FWWはネリス基地にある部隊だが，武器テストのためルーク基地の第58戦術戦闘訓練連隊（58th TFTW）に分遣隊として配属されている機体である。

F-15 Eagles of 57th FWW (Nellis), equipped with AIM-7 air-to-air missile. Dispatched to 58th TFTW, Luke AFB, they are now getting armament tests.

主翼端上・下面と垂直尾翼外側面に，黒フチ付の黄色の帯を画き入れたルーク基地所属の第58戦術戦闘訓練連隊（58th TFTW）第555戦術戦闘訓練飛行隊（555th TFTS）“トリプルニッケル”の隊長機。機体全面はグレイ二色の制空迷彩に塗られている。

Camouflaged in gray overall and with blackhemmed yellow bands on both sides of the wing and on the tail, the "Triplenickel" commander's plane (555th TFTS, 58th TFTW) attracts visitors of Luke AFB.

(Photo by Frank B. Mormillo)

(Photo by Frank B. Mormillo)

上は飛行準備中の第58戦術戦闘訓練連隊（58th TFTW）の司令官，フレッド A. ヘフナー准将（Brig. Gen. Fred A. Heffner）の乗機TF-15A。キャノピー下に描かれている黄色のフチ付の赤星２つは，ヘフナー准将がベトナム戦中に墜した MiG の撃墜マーク。下は雨あがりのエプロンを訓練飛行に出発する第58戦術戦闘訓練連隊（58th TFTW）第555戦術戦闘訓練飛行隊（555th TFTS）所属の練習型TA-15A。

(Top) TF-15A flown by Brig. Gen. Fred A. Heffner, Commander, 58th TFTW. Note the two stars showing the general's achievements during the Vietnam war. (Bottom) Triplenickel's trainer-model TA-15A.

(Photo by Frank B. Mormillo)

機体全面をグレイ二色の制空迷彩に塗装した，第58戦術戦闘訓練連隊（58th TFTW）第555戦術戦闘訓練飛行隊（555th TFTS）所属のTF-15A。左は胴体側面に描かれているエンブレムで，上に見えるのはM61バルカン砲の銃口。下は第58戦術戦闘訓練連隊（58th TFTW）に所属するF-4Cで，胴体と主翼上・下面に，有視効果を評価するために，白と黒の帯を臨時に書きいれている。

Gray-camouflaged TF-15A of 555th TFTS, 58th TFTW. Its emblem, "Muzzle of M61 Vulcan", on the fuselage sides, is closed up on the left top. (Down, next page) F-4C of 58th TFTW. The black and white bands temporarily drawn on the fuselage and on both surfaces of the wing are for visibility evaluation.

(Photo by Frank B. Mormillo)

(Photo by Frank B. Mormillo)

松島基地のT-2部隊

T-2 Trainers assinged to JASDF Matsushima Base

上はエプロンで整備中の松島基地第4航空団臨時第21飛行隊のT-2 高等練習機。機体の塗装は量産型はすべてエアクラフト・グレイに塗られているが，写真の 102番機のように，同飛行隊に配属されている試作型2機は無塗装のままになっている。臨時第21飛行隊では3月末までに19機のT-2がそろうことになっている。下は訓練飛行を終えてフライトラインにもどってきたT-2練習機。

(Top) T-2 Supersonic Trainers assigned to the 21st Sq., 4th AWg, JASDF Matsushima Base. All mass-production model T-2's are painted gray, while test-made are non-paint, metal. The 21st Sq. has two such aircraft. The "120" is one of the two. A total of 19 T-2's are to be assigned to the squadron by the end of March.

上は訓練飛行に離陸するT-2練習機。下はエプロンで翼を休めるT-2練習機。尾翼のマークは第4航空団の他の飛行隊と同様な数字の4を図案化したものを書き入れている。

(Top) Take-off. (Bottom) At apron. The tail marking of the 21st Sq. machines, common to other squadrons under the 4th Air Wing, is "designed 4".

ロッキードS-3バイキング

ロッキードS-3Aバイキングは米海軍のS-2トラッカー対潜哨戒機の後継機として開発されたもので，1972年1月に初飛行した世界で初めてのジェットエンジン装備の艦上対潜機である。S-3Aによる最初の部隊は1974年7月に空母ジョンFケネディに配属され，最終的にS-3Aを装備する部隊は12飛行隊編成されることになっている。上はセシルフィールド海軍基地で撮影した第32対潜飛行隊（VS-32）のS-3A。中と下は第22対潜飛行隊（VS-22）のS-3A。

(Top) S-3A of VS-32. Photo taken at Cecil Field. (Midddle & bottom) S-3A of VS-22.

(Photo by R.L.King)

Lockheed S-3 Viking

707
USS
ENTERPR
NAV
VS-2

AE
9734
USS AMERICA
NAVY
VS-28
158734

(Photo by Richard P.Lutz,Jr.)

左上は空母エンタープライズに搭載されている第29対潜飛行隊（VS-29）所属のS-3Aバイキング。右上はVS-29の尾翼マーキング。下は空母アメリカに搭載されている第28対潜飛行隊（VS-28）所属のS-3A。

(Top left) S-3A Viking of VS-29 aboard Carrier ENTERPRISE. (Right top) VS-29 S-3A marking. (Bottom) S-3A of VS-28.

(Photo by Richard P.Lutz,Jr.)

アンテナ付のF-4D

F-4D With Special Antenna

(Photo by M.Tanaka)

胴体上面にジャミング用アンテナを取り付けた，韓国のクンサン基地に駐留している，第8戦術戦闘連隊（8th TFW）第80戦術戦闘飛行隊（80th TFS）所属のF-4Dファントム II。写真は横田基地で撮影したもの。

F-4D Phantom of 80th TFS, 8th TFW, Kunsan, Korea. Photo taken at Yokota AB, Japan. Note the antenna for jamming purpose.

Revell

プラスチックモデルは
レベル
グンゼ産業(株)レベル部
東京都千代田区神田錦町3-17
TEL 291-8181(代)

迫真の重戦闘機
手にとって確めよう

紫電

川西 局地戦闘機 紫電11型甲　発売中

レベルの傑作"紫電"をもう作りましたか?
そのシャープさと忠実さは、モデラーの腕にずしりと応える重量感あふれるモデルです。そして、なんといっても機体表面の心憎いばかりの彫刻は、紫電の男性的な力感をいっそう強調しています。
1/32有名機シリーズに力強い日本の重戦が加わって、いっそう楽しくなりました。

- シャープなエンジン、取付が簡単な排気管。
- 自動空戦フラップを再現。
- 増槽、爆弾、長い主脚、首を振る尾輪、車輪止め、座席調節レバーなど楽しさいっぱい。

■H-170 1/32スケール 全長28cm 全幅37cm ¥1,500

1/72レベルファイターシリーズ

単葉機値下げ断行!! ¥150→¥100

傑作機ぞろいのレベルファイターシリーズ単葉機が¥100になりました。ポリカルポフから疾風まで、モデラーにとってなくてはならない18機種。それが、うれしい¥100。ますます作りやすくなったのです。
レベルファイターシリーズ複葉機も12機種そろって、いま最高潮。キミの仲間はもうこっそり作ってるかも―。
複葉機は¥300です。

Joyful Revelldom
この素晴らしい模型 この楽しさ!

レベル総合カタログ全44頁●お求めは模型店でどうぞ　1部¥300●当社へ直接お申込みの場合は、¥300　送料¥200を切手でお送りください

サンダーバーズのF-84F

F-84F of Thunderbirds

アリゾナ州ルーク空軍基地に展示されている，米空軍のアクロバットチーム"サンダーバーズ"の使用していたF-84F。"サンダーバーズ"のF-84Fは，最初の使用機F-84Gに続く2番目の使用機で，1955年から1956年にF-100Cに機種変更するまでの約1年間使用していた。

Thunderbirds' F-84F displayed at Luke AFB, Ariz. The F-84F was the 2nd player of the USF acrobat team, used for about one year, 1955 ~1956.

写真で見る　MiG-23と25の近況

▲ミコヤンMiG-23U（フロッガーC）。可変翼戦闘機MiG-23の複座練習／戦闘機。タンデム複座で、後席はやや高くなっていて、風防は両席独立に開閉する。そのほか操縦席後方の背部のフェアリングが少し高めになっているほかは単座のMiG-23B（フロッガーB）と同じである。
▶MiG-23B（フロッガーB）。MiG-23は1967年7月9日のドモデドボ空港で初めて公開された原型のほかに、尾翼を後方に移動させて改造した生産型のMiG-23B、それに複座練習／戦闘型のMiG-23Uが確認されている。

▲ Mikoyan MiG-23U (Flogger C). Tandem two-seat version suitable for both operational training and combat use. Rear seat slightly higher than forward seat. Except otherwise, this has no much difference from MiG-23B.

▶ MiG-23B (Flogger B). Single-seat version in current operational service. The original MiG-23 version is the MiG-23A (Flogger A) which prototype made its maiden flight at Domodedovo on July 9, 1967.

(**Photo by TASS**)

◀機首部を透明風防に改造したMiG-23B。写真は可変翼をいっぱいに広げて飛行しているところ。
▼迷彩塗装を施したMiG-23B。胴体はそのままだが機首のかたちが標準型のMiG-23Bとは異っており，23mm2連装のGSh23機銃にかえて，6連装のガトリング砲とした地上攻撃型。

◀ MiG-23B. Specially remodeled is the transparent windshield. Variable wing spread in full.

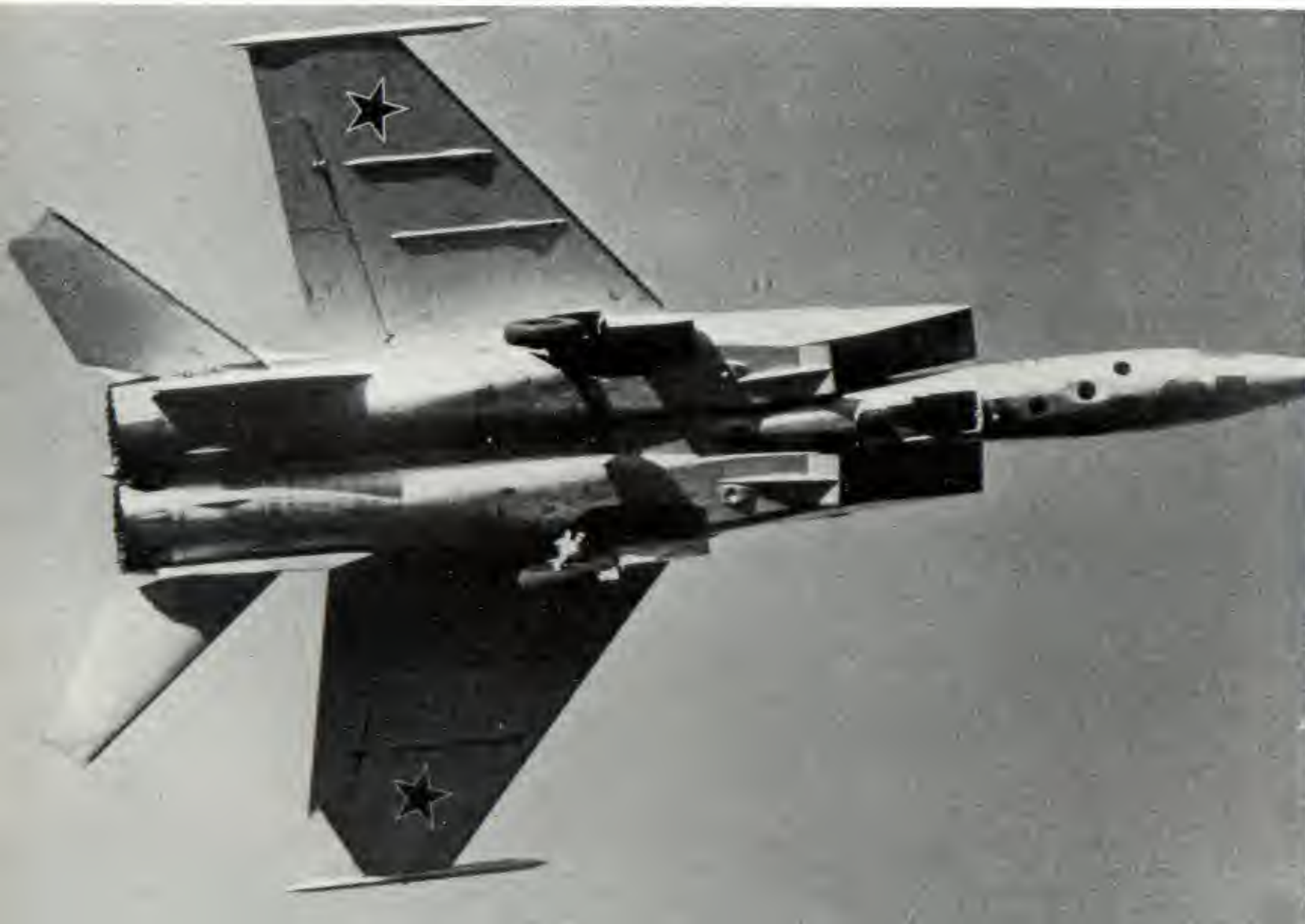
▼ Camouflaged MiG-23B. Note the nose shape, probabl remodeled for reconnaissanc purpose.

MiG-23 & MiG-25, THESE DAYS

▲MiG-25の写真偵察型フォックスバットB。

▲MiG-25 "Foxbat B", reconnaissance version.

▼MiG-25フォックスバットは，迎撃戦闘型（フォックスバットA）と写真偵察型（フォックスバットB）の両タイプが確認されているが，この写真の機体はMiG-25の練習型と思われる複座の機体。タンデム複座で，後座はTu-22ブラインダーと同じようにかなり高い位置となっている。

▼This is probably the trainer version of MiG-25. Tandem, two-seat version. Rear seat is a little higher than forward seat, like Tu-22 "Blinder"

▲◀MiG-25を写真偵察型に改造したフォックスバットB。機首に付いている迎撃用のAIレーダーの代りにカメラを装備したもので，迎撃型のフォックスバットAにくらべると，機首はかなり細めになっており，下方，斜め側下方撮影用のまるいカメラ窓が見える。

▲◀MiG 25 'Foxbat B' for the basic reconnaissance version

英空軍第14スコードロンの
ファントムとジャガー

RAF PHANTOM AND JAGUAR IN W. GERMANY

(Photo by AAPP)

▲▼編隊飛行するイギリス空軍のファントムFGR. 2とジャガーGR. 1。西ドイツのブラッケン基地に駐留するイギリス空軍の第14スコードロンに所属する機体。第14スコードロンは，西ドイツに駐留する最初のジャガー部隊で，昨年12月1日付でファントムFGR. 2からジャガーGR. 1に機種変更している。写真は機種変更の期間中にファントムとジャガーの両方を使用していた時に撮影したもの。

▲▼The RAF 14th Squadron is the first NATO Jaguar squadron in West Germany. These photos were taken in December 1975, when the Phantom FGR. 2 was replaced with the Jaguar GR. 1.

(**Photo by AAPP**)

(Photo by AAPP)

▲▼西ドイツ上空を飛行する第14スコードロン所属のジャガーGR.1。胴体下面に訓練用小型爆弾ラックを1個吊している。機首両側の30mmDEFA機関砲の銃口もよくわかる。

▲▼Jaguar GR.1 of the 14th Sq. starts flying over West Germany. A bomb rack and DEAA 30mm cannon muzzles are clearly seen.

(Photo by AAPP)

ルーク基地の

F-15

Photos by
FRANK B. MORMILLO

F-15 ASSIGNED TO LUKE AFB

アリゾナ州ルーク空軍基地にある，第58戦術戦闘訓練連隊（58thTFTW）第555戦術戦闘訓練飛行機（555thTFTS）は，米空軍で最初にF-15イーグルを装備して編成された訓練部隊である。アリゾナ州の砂漠地帯は一年を通じて天候がよく訓練飛行には絶好の土地で，写真のように雨の降る日は年間5～6日しかないという。このページと右ページは雨の中フライトラインで翼を休めるF-15。

Based at Luke AFB, Ariz., the 555th TFTS, 58th TFTW is the first training unit which employed the F-15 Eagle. Especially interesting is that these photos were taken amid rain. It rains only 5~6 days throughout a year in this desert area.

上は滑走路上のT-15A。中は第58戦術戦闘訓練連隊（58thTFTW）の司令官フレッド A. ヘフナー准将の乗機TF-15A。TF-15はF-15への転換訓練用に複操縦装置を取り付けた機体で，F-15A7機に対しTF-15A1機の割で生産されている。外形上キャノピーのアウトラインが多少ちがうだけでF-15Aと変わりなく，武装なども同じものが使われているので，有事の際には先導機として使用できる。

(Top) F-15A of 555th TFTS starts for training amid rain A 600-gallon capacity fuel tank is seen underneath the fuselage. (Right page) Take-off. The F-15 is capabl of taking off after a less than 600 meter pre-flight runnin Armament includes a M61 Vulcan, four AIM-7 Sparrowair to-air missiles underneath the fuselage and infrared homi AIM-9L missiles.

上は雨の中を訓練飛行に向かう第555戦術戦闘訓練飛行隊（555thTFTS）所属のF-15A。胴体下に取り付けられているのは600ガロンの燃料タンク。右ページ上は離陸するF-15A。F-15は600m以下で離陸することができる。F-15Aの武装は，固定武装としてM61バルカン砲があり，そのほか，胴体下面にAIM-7スパロー4発と翼下に赤外線ホーミングのAIM-9L空戦用ミサイルを装備できる。また，胴体1カ所，翼下各2カ所への爆装もできる。

(Top) T-15A on runway. (Middle) Brig. Gen. Heffner's (Commander, 58th TFTW) two-seat TF-15A. Except for the canopy outline, threre is no difference between the F-15A and TF-15A and, this can be used as the plane for the formation leader in an emergency. Production is being made at the rate of seven Fs to one TF.

松島基地のT-2部隊

T-2 SQUADRON AT MATSUSHIMA AB

宮城県にある航空自衛隊松島基地の第4航空団には，現在，T-33Aを使用する第35教育飛行隊，F-86Fの操縦課程を教育する第7飛行隊，T-2を使用する臨時第21飛行隊が所属しているが，今回は臨時第21飛行隊のT-2を紹介しよう。臨時第21飛行隊は，昨年3月末に実験航空団からXT-2，三菱からT-2量産型をそれぞれ1機ずつ受領して，この2機により新編成されたもので，今年3月末には19機のT-2がそろい，51年度に臨時がとれて正式に第21飛行隊として編成されることになっている。

JASDF Matsushima AB, Miyagi Pref., is the home base of the 4th Wing which commands the 35th Training Sq. (T-33A), the 7th Sq. (F-86F) and the 21st (provisional) Sq. (T-2). The Koku Fan camera spotlighted the T-2 of this provisional squadron which recently received two T-2s — one from the Air Probing Wing and another from Mitsubishi. By the end of March, the squadron's strength will become 19 T-2s, to formalize the squadron organization.

このページ上は訓練飛行に離陸するT-2高等練習機。一回の飛行時間は1時間から1時間半で，訓練空域は太平洋側は三陸海岸沖，日本海側は新潟沖の海上を使用している。中と下はエプロンで整備中のT-2。右ページ上はフライパスするT-2。

(Top) Take-off. One time training mission lasts 1~1 hours, covering the Sanriku coastal area of the Paci side and off Niigata to the Japan Sea side. (Middle) apron. (Right page) T-2 in fly-pass.

訓練飛行を終えてエプロンにもどったT-2。
Back to apron after training.

訓練飛行を終えドラッグシュートを引いて着陸したT-2。
Drag-chute opened as a T-2 touched the ground.

⑥Tu-22ブラインダー爆撃機の複座練習型のブラインダーD。同機の後部座席は前席より一段高くなっている。⑦迷彩塗装を施したソ連の武装攻撃ヘリコプタMi-24A"ハインド"同機は胴体側面に武装パイロンを持っている。⑧サモトロー油田地帯に、ハンガリー製の「イカラス」という大型バスを空輸するИл-76。⑨最近開設されたマガダン～ウラジオストック航空路のИл-18を操縦する女性パイロット、オブラチェンコさん。⑩チュメニの北方、タイガ、ツンドラ等の寒冷地帯は、今まで非常に近づき難い地方であったが、航空機の発達は、この地方の豊かな資源開発を急速に進める結果となった。

▲厚木基地に着陸する第1艦隊偵察中隊（VQ-1）所属のTA-3B。写真のようにアメリカ建国200年を記念して、胴体に赤、白、青の帯と、“平和の鐘”を描いている。
（Photo by S.Ohtaki）

▶富士山のすそ野にあるキャンプフジで対地攻撃訓練を行なった沖縄の普天間に駐留している第369海兵攻撃ヘリコプタ飛行隊（HMA-369）所属のAH-1J。
（Photo by S.Ohtaki）

▼横田基地に飛来したWC-130 E。機首側面にアメリカ建国200年を記念したマークが描かれている。
（Photo by H.Yamauchi）

GRUMMAN F8F BEARCAT

① F8F-1, 空母タラワ配属の第20戦闘飛行隊機 U.S.S. Tarawa (CV-40), VF-20, CVG-1.

② F8F-1, 空母バーレイフォージ(CV-45)配属の第11航空大隊所属機
U.S.S. Valley Forge (CV-45), CVG-11.

③ F8F-1, 空母ボクサー配属の第19航空大隊指揮官機
U.S.S. Boxer (CV-21), CVG-19

④ F8F1B, タイ空軍第2戦闘爆撃隊所属機
2nd Fighter Bomber Wing, Royal Thai Air Force

⑤ F8F-2, 空母コーラルシー配属の第6航空大隊所属機
U.S.S. Coral Sea (CVB-43), CVG-6.

© K.Hashimoto

英空軍コラーン基地の航空博物館《続》

Royal Air Force Colerne Aircraft Museum

↑ Messerschmitt Me163 Komet (191904) (Photo Inter-Air Press)

⬆⬇　Me163 コメート戦闘機。シリアル191904のこの機体は，大戦中にろかくしたものと思われ，終戦直後からこのコラーン基地に置かれている。

⬇　リベレーターB.6 爆撃機。戦後英空軍からインド空軍に供与され，ふたたび英空軍に返還されたリベレーターで，インド空軍には1970年頃まで就役した。

コラーン英空軍基地の航空博物館《続》

Royal Air Force Colerne Aircraft Museum

Messerschmitt Me163(Komet)

(Photo Inter-Air Press)

先月号にひきつづき，英国のウィルトシャー洲コラーン空軍基地に保存されている各機。
〔上〕同基地が持っている2機のドイツ機のうちの1機，メッサーシュミットMe163コメート。わが秋水の元祖ともいえるロケット迎撃機Me163。ここの機体のシリアルは191904で，終戦のころから同基地に置かれている。

〔下〕リベレーターB.6。写真の機体はシリアルがKN751で，1945に英空軍に装備され，インドに駐留する第355，356，358，99各スコードロンで使われ，1946年にインド空軍に供与されたが，のちに英空軍に返還されたもの。

Consolidated Liberator B.6

(Photo Inter-Air Press)

↑ 前ページと同じくインド空軍から返還されたリベレーターB.6。本機は1974年にインドからこのコラーン基地まで，アブダビ，カイロ経由で約1万マイルを飛んで帰って注目された。機首には英語で「インド空軍から英空軍博物館へ贈られた」と書かれた文字板が付けられている。

↑ Liberator B.6. This particular aircraft was supplied to the RAF in 1945 and served in India with 355, 356, 358 and 99 Squadrons.

(Photo: Inter-Air Press)

⬇ イングリッシュ・エレクトリック　キャンベラB 2 爆撃機（WJ 676）。キャンベラB 2 は420機が生産され，マレーやスエズ海峡方面の英空軍部隊に装備されたが，写真の機体は1957年から第50と第35スコードロンで就役，1963年にタングメア基地からコラーンに運ばれたもの。

(Photo Inter-Air Press)

▲ Douglas Dakota III

▼ Gloster Javelin F(Aw)7

〔上〕コラーン基地が保存しているダグラス　ダコタ3(C-47A)は，もともとのシリアルはKG374。二次大戦中は第271スコードロンに装備され，VIP(高官)の輸送用に使われた機体。戦後もドイツ駐留部隊で，モントゴメリイ将軍の乗機などに使われている。のちに改造されて4型となり，シリアルはKN645となった。〔下〕前号で黒白の写真で紹介しているグロスター ジャベリンF(Aw)7(XH892)。最近の情報によれば，このコラーン空軍基地は近く閉鎖されることになっており，保存機は売りに出されているともいわれる。

(Photo Inter-Air Press)

⬆ Meteor Mk.4 (VT 229) and Vampire Mk.3 (VT812)

(Photo: Inter-Air Press)

⬆ ミーテァMk.4（VT229）と右はバンパイアMk.3（VT812）の機首。ミーテアはこの機体のほかにもう1機Mk.8（WK935）が保存されている。バンパイアMk.3は第601"カウンティ・オブ・ロンドン"スコードロンで使われたもので，現存するただ1機のバンパイアMk.3。

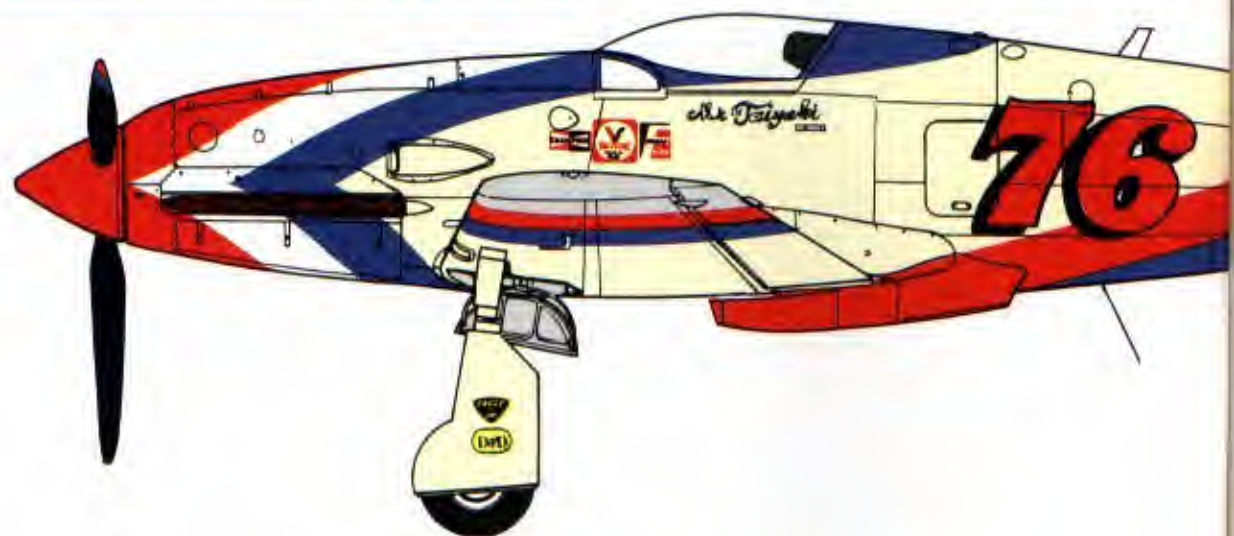
➡ Douglas Dakota (KG374)

(Photo: Inter-Air Press)

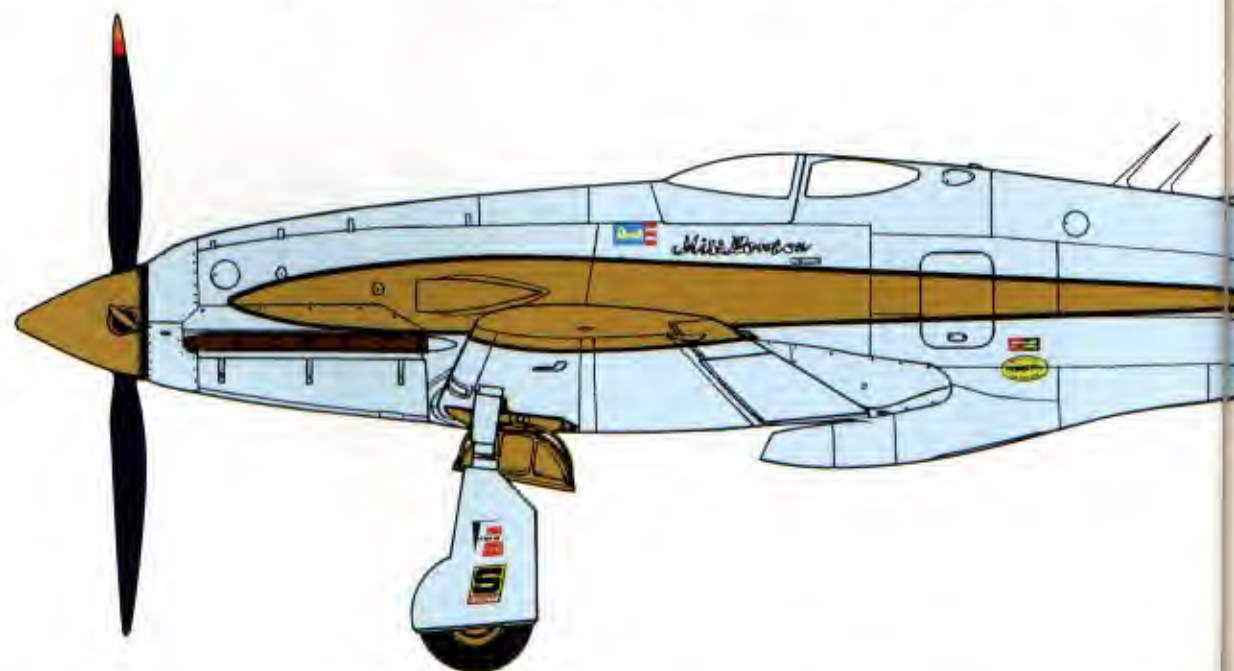
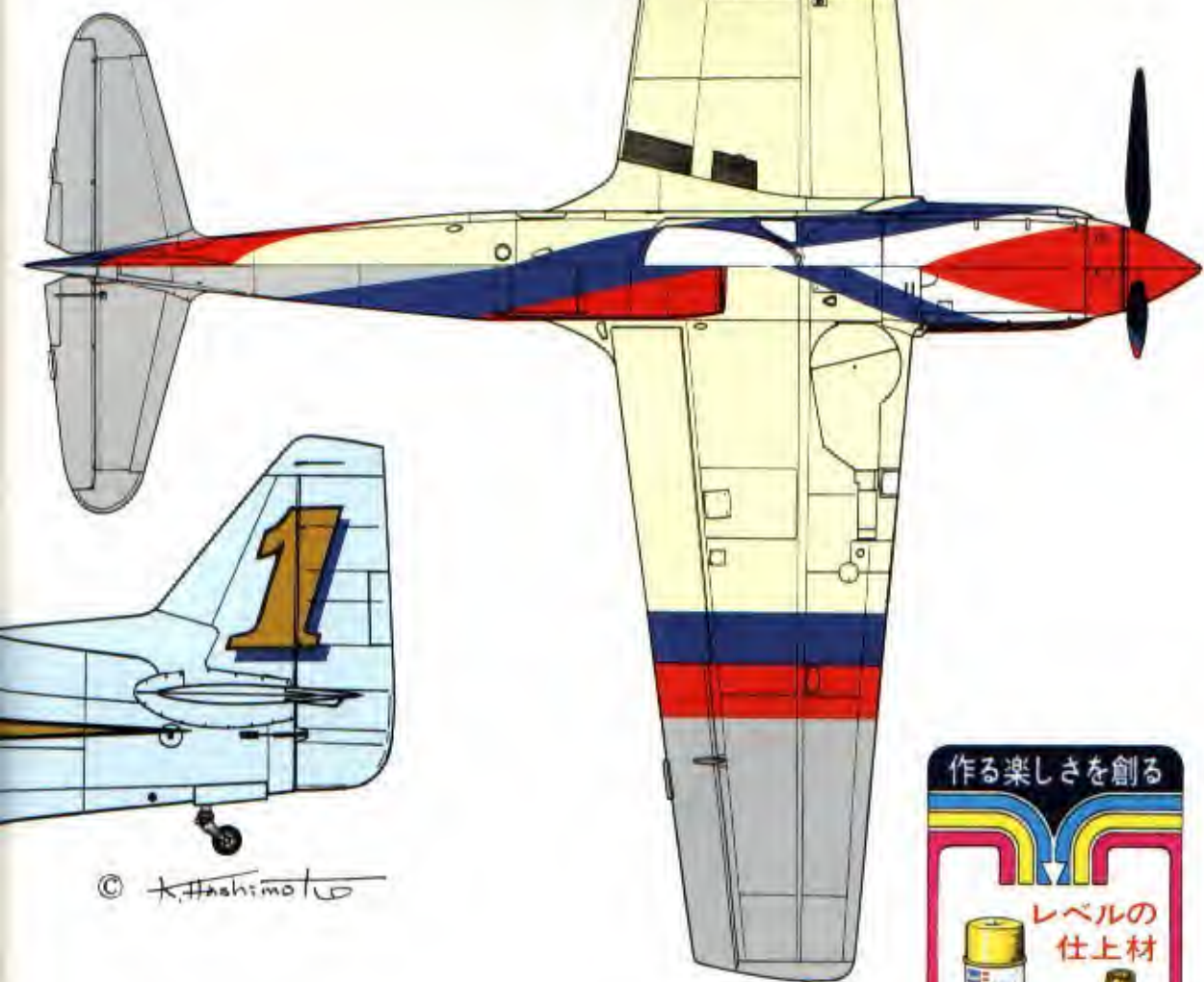
➡ ダグラス ダコタ。大戦中に第271スコードロンの所属機として活躍した機体の塗装にして展示されているダコタ。1974年4月からコラーンに展示されている。

➡ ハンテング・パーシバル プロボストT.1練習機。プロボストは1953年から英空軍の初級練習機に採用され，全部で387機が生産されている。ジェット・プロボストが就役してから順次除籍されたが，数機は1969年まで使われていた。本機で編成されていたセントラル・フライング・スクールの曲技飛行チーム“ザ・スパローズ”は海外にもよく知られていた。写真の機体はセントラル・エア・トラフィック・コントロール・スクールの所属機であった1機。

➡ Hunting Percival Provost T.1

(Photo: Inter-Air Press)

"HIEN"
AIR RACER

1/32 SCALE KIT

"飛燕" 改造エア・レーサーへのヒント　Vol. 1

76
1
© K.Hashimoto
作る楽しさを創る
レベルの
仕上材

ハイモデリングのための
レベル資料集

“飛燕”改造エア・レーサーへのヒント（Vol.1）

今年も例年どおり，（P.P.C）プラプレーン・コンテストが近づいてきました。今度はすこし趣向をかえて，レベルの1/32第２次大戦有名戦闘機群のキットで，アンリミッテド・クラスのエア・レーサーを作って出品してみるのはいかがでしょう。

ムスタングとかベアキャット等々の有名なアメリカ戦闘機は，実際にエア・レーサーとして活躍しているが，さて旧日本戦闘機をレーサーにするとどうなるか，という趣向です。

主な改造部は，まず武装に関するものを全部とりさることが第一工程。つぎにはレーサーらしくするポイントとしてキャノピの改造があります。

図①は，なるべく原型の味を残した“Hien”レーサーで，キャノピは横開き式，垂直尾翼を少し増積し，主翼翼端を切断，ラジエーター部を改造すると，こんなにイメージの異なった“Hien”に変身。

図②はさらに垂直尾翼を近代化し，キャノピは極力小さく，スピナを延長，ラジエーターをムスタング・タイプに，プロペラは４翅ペラ付きです。

もちろん改造や塗装は，しちめんどうくさいルールはありません。基本塗装について，などと頭痛のたねになるようなことは考える必要もないという，まことにグーな改造プランのヒントです。

実際のエア・レーサーの写真を見て，あなたの改造プランの参考にして下さい。

（イラストと文・**橋本喜久男**）

← 3式戦"飛燕"Ⅰ型参考写真。前ページ図のように，むだなところをはぶき，スピードが出るように整形して，レーサーらしく仕上げてみましょう。

↑ アメリカのエア・レースで活躍しているムスタング。レロイ・ペンホールの所有機。

→ 同じくケネス・バンシュタイン所有の派手な塗装のムスタング。

↓ ジョン・ライトが保有しているムスタング"ロトフィニッシュ号"。リノのエア・レースで優勝の経験もある。

アメリカでエアレースに使われているP-51ムスタングの1機。機体塗装は現役当時のものを一部生かし，尾翼にレース・ナンバー。エアレーサー機の典型的な"お化粧"である。
(Photo: C. J. Graham)

●米海軍最後の
レシプロ艦戦●

グラマン F8F ベアキャット

GRUMMAN F8F BEARCAT

2機作られたベアキャットの原型XF8F-1の1機

Ｆ４Ｆワイルドキャット、Ｆ６Ｆヘルキャットに次いで、グラマンが２次大戦中に開発した３作目の艦上戦闘機Ｆ８Ｆベアキャットは、ピストン・エンジン戦闘機の最高傑作機のひとつ。搭備エンジンはＦ６Ｆと同じ2000馬力のＰ＆Ｗ　Ｒ-2800で、外形もＦ６Ｆを踏襲しているが、小型空母をふくむあらゆる空母から出撃できる迎撃戦闘機として、機体はひとまわり小さい軽量なものとしたため、速度、上昇力のすぐれた高性能機となった。

ベアキャットが艦上部隊に配備された1947年ころの各機の識別用レターは、"B"が空母ボクサー配備の第19航空大隊（ＣＶＧ-19）、"K"が空母キアサージ配備の第３航空大隊（ＣＶＧ-３）、"C"が空母コーラルシー配備の第６航空大隊（ＣＶＧ-６）所属機を示した。

第19航空大隊（ＣＶＧ-19）の司令官機。1947年７月ころのもので、100番は司令官機を意味しているほか、国籍記章が帯のように機体をとりまいている変ったマーキングである。

107ページは２機作られた原型ＸＦ８Ｆ-1の１機。開発契約後わずか10ヵ月の1944年８月21日に初飛行したＸＦ８Ｆ-1は、海面上昇率1,463m/分、最高速度682km/hと予想どおりの高性能で、まもなく2,023機の生産が発注された。このページ３枚は、最初の生産型のＦ８Ｆ-1。生産型では、エンジンがＲ-2800-22Ｗ(離昇出力2,100hp) からＲ-2800-34Ｗに代り、垂直尾翼前方に背ビレを新設、燃料タンクを増やすなどの改良をしている。

写真上は主翼下に20mm機関砲ポッドを装備したＦ８Ｆ-1。Ｆ８Ｆ-1の武装は主翼の12.7mm機銃４挺（各300発）のほか、主翼下のラックには1,000-ℓb（453.6kg）爆弾２発を吊すことができた。迎撃戦闘を主任務として開発されたため、高性能ではあったが、航続力不足は本機の難点で、このラックには284-ℓの落下増槽２個を吊してアシをのばした。

写真右上は、米海軍のアクロバット飛行チーム"ブルーエンゼルス"の装備機となったＦ８Ｆ-1。1946年に編成された"ブルーエンゼルス"は、Ｆ６Ｆにつづく２番目の曲技機として本機を46年末から49年まで３年間使用している。

終戦のため2,023機発注されたＦ８Ｆ-1は765機に減らされたが、1946年から47年にかけて、海軍の戦闘機部隊はつぎつぎに本機に機種改変、1948年には24個飛行隊がベアキャットを装備していた。Ｆ８Ｆ-1の生産は削減されたが、つづいて主翼の12.7mm機銃を20mm機関砲４門に強化したＦ８Ｆ-1Ｂが100機、夜間戦闘機型のＦ８Ｆ-1Ｎが36機発注された。

20mm機関砲４門としたＦ8Ｆ-1Ｂのエンジン・カウリングを改造し、垂直尾翼を高いものとしたのがつぎの生産型Ｆ8Ｆ-2で、293機が作られている。Ｆ８Ｆ-2では、-1にくらべて上昇率はやや劣ったが、最高速度は719km/h(高度8,534m）という驚異的な性能であった。Ｆ８Ｆ-2は1948年中ごろから部隊に配備され、-1とともに1950年まで就役している。

写真下と右下はオンタリオのエド・マロニー航空博物館に保管されていたＦ８Ｆ-2。Ｆ８Ｆ-2につづいて、夜間戦闘型のＦ８Ｆ-2Ｎが12機、主翼の20mm機関砲を４門から2門に減らしてカメラを積んだ写真偵察型のＦ８Ｆ-2Ｐが60機生産され、-1、-2を改造した標的曳航機Ｆ8Ｆ-1ＤとＦ8Ｆ-2Ｄも数機が作られている。

U.S.NAVY
N4995V
56

写真上は海軍の訓練部隊に配備されたF8F-2。主翼下に284-1の増槽を吊している。

F8Fベアキャットは、最初の部隊である第19戦闘飛行隊（VF-19）が編成されたのは1945年5月21日だが、3ヵ月後には終戦となり、ついに太平洋戦の戦場に登場する機会がなかった。本機が初めて実戦に参加したのはフランス空軍機としてで、インドシナ戦争で1951年末から停戦の54年6月まで、近接支援機として数多く出撃している。フランス空軍には、米海軍を"退役"したF8F-1とF8F-1Bが約100機供与されたが、部品不足のうえ、泣きどころの航続力の足不がわざわいして、充分な活躍をすることができなかった。航空近接支援任務では、すぐれた空戦性能力を生かすこともできず、ハノイ周辺の近距離の作戦に動員されたにすぎなかった。

インドシナ戦争の停戦とともに、米軍事顧問団のきもいりで、近隣のタイ国空軍の増強がはかられ、新しく編成された戦術戦闘爆撃中隊の使用機として129機のベアキャットが供与された。このうち100機はF8F-1で1960年初めまで使われたが、29機のF8F-1Bは部品の補強がつづかず、ぜん次消耗した。写真下はタイ国空軍のF8F-1Bの1機。

未発表 海軍機写真集

緒戦の零戦

Zero fighter, A6M2, of 3rd Flying Group, advanced to Kendari, Celebes, late in 1941, Just after the Pacific War broke out.
(Photo by T. Yokoyama)

開戦直後の昭和16年末、セレベスのケンダリーへ進出した第3航空隊の零戦21型。

A6M2 Zero fighters of 3rd Flying Group, lined-up at Takao Base apron, Taiwan. (Photo by T. Yokoyama) ⬆

Zero pilots were all flushed with tension when they received an order of advancing to the Philippines at Takao Base on Dec. 8, 1941. ➡

開戦と同時に台湾の高雄基地から長駆してフィリピンのクラークフィールド、イバ、ニコラスの各航空基地を攻撃した23航戦の台南空と第3空の両戦闘機部隊。装備機はいずれも零戦21型。たちまちフィリピンの空を席巻して、ダバオ、ジャワ方面へ進出した。高雄、フィリピン間片道約500カイリ（925km）。零戦の長距離進攻能力とすぐれた空戦性能は、この一撃で世界に知られた。緒戦の"ゼロ・ファイター"はまさに栄光の翼であった。

ここに紹介する写真は高雄からジャワ方面へ怒とうの進撃をした第3航空隊の隊員たちと零戦21型。当時同航空隊の飛行隊長として奮戦された横山保氏の提供によるものである。写真上は高雄基地のエプロンに並んだ零戦21型。横山飛行隊長は、零戦53機の大編隊を率いてフィリピンの空に向った。写真右は高雄基地で出撃前の命令伝達。

3rd Flying Group warriors at Davao, Mindanao.

ダバオ基地に進出した第3空の隊員たち。戦闘の合間に軍歌の斉唱。後方に零戦21型が翼を休めている。

Waiting, beside A6M2, for their turn of sortie are warriors of the 3rd Gp.

同じく南方基地の第3空の隊員たち。草原の飛行場。りりんと翼を張った、せんれんされた機能美をほこる零戦が、いつでも飛び立てる態勢で待機している。

ここの２枚も、昭和16年12月末に南方に進出した第３空の零戦21型。上の写真は17年１月１日、セレベスのメナド基地で、遠い東京の空に向って元旦の遥拝。後方に機首をシートでカバーした零戦が見える。

The 3rd Flying Group greeted the New Year, 1942, at Menado, Celebes. ⬆

未発表　日本陸軍機写真集

"桜弾"を積んだキ167

Ki. 167 Bomber (modeled after Ki. 67 "Hiryu") loaded with "SAKURA-DAN" special bomb, Tachiarai Airfield, May 1945.

4式重爆"飛龍"を改造して、1キロ四方はこっぱみじんという高威力の新型爆弾"桜弾"を積んだ特攻機キ167。操縦席後方にもりあがって見えるのが"桜弾"。機首には信管を埋め込み、ベニヤ板で整形したので、なまずの頭のようにふくらんでいた。この写真は昭和20年5月出撃まぎわに大刀洗基地で撮影した本機の珍らしいスナップである。詳細は77ページ記事参照。

緑十字の97式重爆

Type 97-2 Heavy Bomber (Ki. 21-II). The "Green Cross" taped on the national insignia shows it is a liaison plane in use for post-war arrangement in the southern area.

3月号のアート・ページに一部紹介したが，これも終戦時に緑十字を付けて，南方各基地へ連絡に飛んだ97式重爆。ここの4枚の写真はビルマ，タイ，仏印方面に展開した第3航空軍司令部飛行班所属の97式重爆2型前期型である。日の丸マークの上を緑のテープで十字におおった応急のマーキングである。

下の写真の97重爆の機首には，太平洋戦線の日本側の心理戦謀略放送で活躍した"東京ローズ"のニックネームが書かれており，後方にはモスキートがうつっている。

This is the latter version of the Type 97, II model, also used for post-war arrangement liasion transport. The exhaust stack and the round-shped turret windshield were major points of distinction from the earlier version. Note the green cross drawn clearly.

このページ2枚も終戦処理の連絡で南方基地へ飛んだ緑十字の97式重爆。前ページの写真の機体にくらべて、十字のマークも正規に、はっきりと画かれている。なおここの写真の機体は胴体背面の後方銃座を球形の風防とし、単排気管に改めたII型の後期型である。下の写真では後方銃座の球形風防をとりはずして整形している・。

エアラインの翼

Pan Am's Planes

パン・アメリカン航空 ①

今月号からいよいよ世界の国際エアラインのしにせのひとつパン・アメリカン航空の翼たち。民間航空輸送をリードしたエアライナーがつぎつぎに採用されているので、じっくりと紹介することにしょう。

パン・アメリカン航空が創立されたのは1927年の3月14日。アメリカの郵政省当局とフロリダからキューバへの外国郵便輸送の契約を結んで、同年10月19日、1番機が飛んだ。使用機は写真上のフェアチャイルドFC-2にフロートを付けた水上機型であった。ただしこれはウェスト・インディアン・エアリアル・エクスプレス社からのチャーター機。フォッカーF-7が導入されるまでのつなぎとして使われている。写真下は1927年10月末に3機導入されたフォッカーF.7。10月28日に1番機がフロリダ州キイウェストとキューバーのハバナ間90マイル(145km)の路線に就航している。翌28年1月16日には、本機で初めての旅客輸送も開始した。

⬆ Fairchild FC-2 ⬇ Fokker F.7

〔フェアチャイルドFC-2データ〕エンジン；ライト・ホワールウィンド（離昇220hp）×1、全長15.24m、全幅9.45m、最大重量1,633kg、乗員／乗客席×4、巡航速度185km／h、航続距離241km。

〔フォッカーF.7データ〕エンジン；ライト・ホワールウィンド×3、全長14.63m、全幅19.20m、最大重量3,469kg、乗員／乗客席×8、巡航速度177km／h、航続距離965km。

ジェット戦闘機の先輩たち

アメリカ海軍 ⑥

コンベア　F2Y-1 シーダート

CONVAIR SEA DART

コンベアF2Yシーダートは、世界で最初のデルタ翼水上ジェット戦闘機で、しかも降着装置はフロートのかわりに引込式のV型ハイドロ・スキーを採用したという変りだね。結局、原型機が4機作られたのみの研究機の段階で終った。

原型の1号機は推力3,400-lb(1,544kg)のウェスチングハウスJ34-WE-42ターボジェット・エンジン2基装備。1952年12月16日にサンディエゴ湾で進水、水上滑水テストをつづけたのち、翌53年4月9日に初飛行している。つづく原型2号機のYF2Y-1は、アフターバーナ収納のために胴体後部を延長、J-46-WEエンジン〈推力6,000-lb〉2基としたもので、1954年8月3日の飛行テストでは高度34,000-ft(10,363m)からのダイブでマッハ1を超す速度を出したが、同年11月に事故で失なわれた。当初F2Y-1シーダート戦闘機12機生産の契約が結ばれていたが、のちにキャンセルされている。

写真上は、1953年２月に初めて公表された原型１号機ＸＦ２Ｙ-1の写真。このころ本機の細部は秘密とされており、写真でも機体下面の一部は修正されている。写真下は同じくＸＦ２Ｙ-1で、滑水テスト中のシーン。水上でのシーダートは水平の姿勢であったが、滑水してスピードが増すと、ハイドロ・スキーが機体を持ち上げ、機首をあげた離水の状態にした。写真ではＶ型のハイドロ・スキーを２個付けているが、のちにはこれを１個のものにしてテストされている。写真下ではだいぶ増速されて機首が浮きあがっている。

写真上と下も原型1号機のXF2Y-1で、飛行中と離水寸前のスナップ。下の写真ではハイドロ・スキーを1個にしてテスト中のもの。1個にしたのは、2個の場合に問題となった振動と安定の対策のためである。XF2Y-1、YF2Y-1につづいて、推力12,000-ld（5,443kg）のライトJ67か15,000-lb(6,803kg)のP&W J75エンジンいずれか1発を積めるようにしたXF2Y-2も作られている。

〔XF2Y-1データ〕全幅9.29m、全長12.54m、全高（ハイドロ・スキー展張時）6.42m、全備重量9.978kg、離陸滑水距離1,676m。